

復興、肌で感じ…新聞で思い伝える

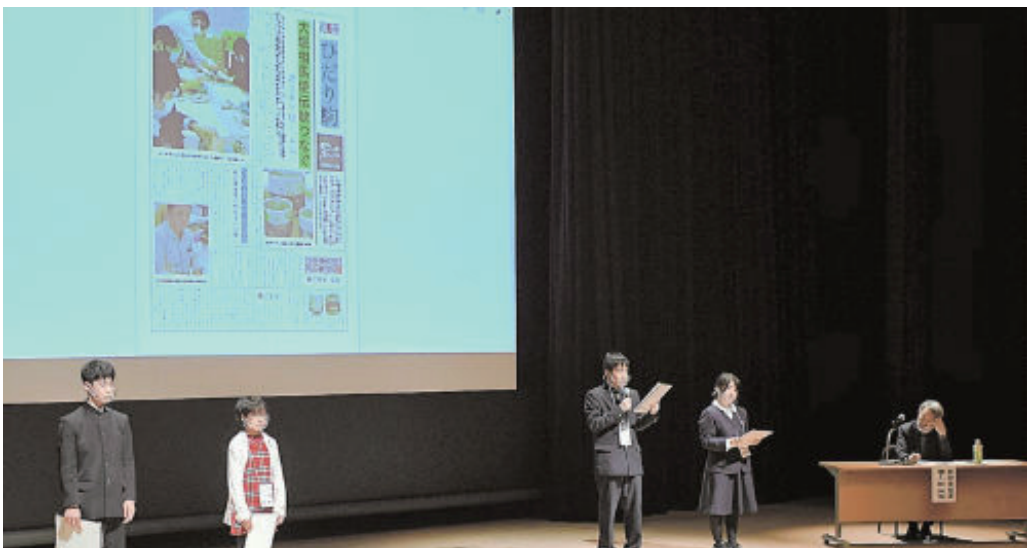


日本原子力研究開発機構（JAEA）櫛葉遠隔技術開発センターでロボットを操縦する子どもたち。廃炉作業の難しさ、職員の熱い思いに触れた

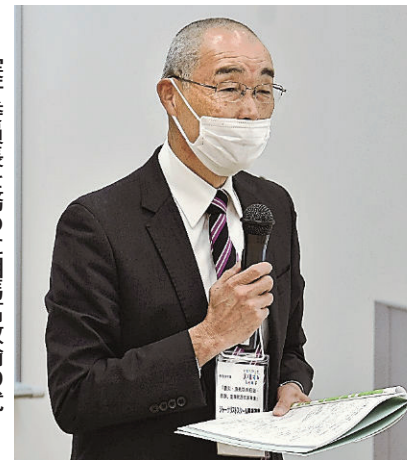


「話し方に説得力を持たせて」「もう少しゆっくり話して」。新聞を披露する前に入念に発表練習 ▲

ふくしまの今、復興の姿を伝えたい。相双地方で繰り広げられた3日間のジャーナリストスクールで、子どもたちは古里の現状や人の思いを肌で感じた。ジャーナリストの池上彰さんと交流しながら、記者の心構えや新聞の「伝える工夫」にも理解を深めた。



来場者の前で新聞を発表し、池上さん（右）から講評を受けた▲



実行委員長を務めた相馬高教諭の武内義明さん。スクールの目的を示し、取材や紙面製作を温かく見守った ▶



「富岡町3・11を語る会」代表の青木淑子さん（右）を取材する子どもたち。語り部活動の意義や復興への思いを聞いた ▲



整理記者からレイアウトのアドバイスを受ける子どもたち。読みやすさを考えながら作業に取り組んだ ▶

発行

福島県文化スポーツ局生涯学習課

ご意見、ご感想をお寄せください

〒960-8670 福島市杉妻町2-16 電話024(521)7404 ファクス024(521)5677

メール shougaigakushuu@pref.fukushima.lg.jp ホームページ 福島県 生涯学習課 検索